

グローバル化時代に伝統医療が直面する課題 —「タイ式医療」の誕生と知的財産権の拡大を手がかりとして—

スポーツ文化研究領域

5008A024-8 小木曾 航平

研究指導教員：寒川 恒夫 教授

第1章

研究の目的

本研究はタイ政府によるタイ式医療制度化の背景を歴史・社会的動態を踏まえながら整理し、今日のグローバル化した状況に伝統医療が直面している課題を明らかにする。その際、中心となる分析視角として、タイ式医療制度化の過程をタイ政府が伝統医学知識をナショナルな資源として知的財産化していく過程として捉え、考察していくこととする。

研究の背景

20世紀後半、国際的な潮流として伝統医学知識を知的財産と認め、それを伝統的に保有してきた国や民族の権益を保護しようとする動きが活発になった。このことは、結果として、伝統医学知識をめぐる様々な問題を生じさせており、タイ式医療もその例外ではない。

背景には、先進企業による「バイオパイラシー（生物遺伝資源への海賊行為）」に対して、途上国の政府やNGO、先住民たちが資源ナショナリズムを高揚させていることが挙げられよう。先進企業は途上国から無料で提供される生物遺伝資源を利用して医薬品や化粧品などの新商品を開発し、その技術の特許化することによって多くの利益を得ていた。一方、そうした生物遺伝資源を健康維持のために昔

から利用してきた先住民は、特許申請のための費用を捻出することができず、もしできたとしてもグローバルな特許ルールに必要な「発明のステップ」を踏んでいないために特許として認められない。かといって、企業から正当な利益配分を受け取ることもない。さらに、先進企業による生物遺伝資源の乱獲は、その地域の生物多様性を破壊するのみならず、そこに生活してきた先住民の伝統的社会生活そのものを変容させるという文化的問題をも生じさせている。

タイ式医療の誕生は、伝統医学知識に向けられる国際的な認識の変化を背景に、タイ政府がナショナルな資源として伝統医療を再定義するようになったことの帰結でもあろう。ここで、注目すべきは伝統医療が国家や民族集団の知的財産として位置づけられるようになった今、伝統医療は単なる医療以上の価値を持ち始めているということである。伝統医療はグローバルな健康市場と連結することによって、利潤を生み出す商品としての価値を高めているのだ。こうした状況は、伝統医療をそれが実践されていた文脈から切り離し、そもそも伝統医療が誰の文化なのか把握できないような事態も生んでいる。すでに医療人類学や観光人類学といった領域がその成果を挙げているように、今日、伝統医学知識や伝

統文化の研究は単にそれを民族固有の文化規範や様式を抽出するための対象として扱うだけでは十分な理解に結びつかなくなっているのである。

第2章

第2章では、本研究が対象とするタイ式医療の歴史的背景を整理する。一般的にタイ式医療はタイの伝統医療といわれることが多いが、伝統医療という言葉で一括りにされる医療は実際、多様な医療実践を含んでいる。本研究の問題関心である「伝統医療からタイ式医療、そして知的財産へ」というプロセスにおいては、伝統医療の統合と排除という作業が欠かせない。タイ式医療制度化の過程で、関係者たちは何を統合し、何を排除したかを後の章で正確に確認するためにも、タイの伝統医療とは何か、その歴史的背景はどのようなものか、ということをもまずは整理しておく。

第3章

ここでは、タイの伝統医療がタイ式医療へと制度化していく歴史・社会的動態を整理していく。目的は大きく2つある。WHO（世界保健機関）による「アルマ・アタ宣言」を契機として、国際保健医療の領域で伝統医療の再定義が行われ、それに触発されてタイ国内でも伝統医療復興が興ってくるという流れを明らかにすること。2つ目に、そうした伝統医療の復興に「共同体文化」論や「土地の知恵」論といったタイ国内の民主化の流れを汲む思想運動が少なからず関係していることを明らかにすることである。

第4章

そして、第4章ではタイ式医療研究所の活動を明らかにしながら、タイ式医療が単なる医療実践を超えて、より産業としての価値、つまり財産性を強めていくことを明らかにする。そして、タイ式医療という知的財産をめぐって生じた「ルーシーダットンの商標登録問題」の詳細を明らかにし、伝統医療が直面する今日的課題を明らかにする手がかりとする。

第5章

結論にかえて

第3章から第4章にかけての考察から、タイ式医療が単なる医療実践を超えた経済的価値（スパ・観光産業におけるハーブ商品やタイ・マッサージの需要）をもつという複合性によって、知的財産としての価値を高めていることが明らかになった。と同時に、知的財産化のパラドクスとして、タイ式医療が「グローバルな発明のステップ」を踏んでいくことを回避するのは難しい。このことは、タイ式医療のもつ文化的多様性を破壊する可能性を秘めているといえるだろう。今後はタイ式医療のもつ文化的多様性と、医療的公共性の両方を維持することができる知的財産権のあり方が模索されなければならない。

また、グローバリゼーションと伝統医療の間には、伝統医療の所有における先進国の支配と途上国の被支配、という関係性を解消し、公平な交換性を維持できるような両者の関係を構築する不断の試みを止めないことが課題として残されている。